
星になった彼女

相葉リョウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星になった彼女

【Nコード】

N7689C

【作者名】

相葉リョウ

【あらすじ】

深く愛しあってラブラブな二人の幸せなカップルだったユウキとミカだか突如ミカは病氣と戦う事に。そういう時こそ本物の愛か分かる！？

あの元気だった時の君は、いつも輝いてたね。そお、まるで冬の空で輝いてる星、その中でも一際輝いてる一等星にも勝るとも劣らない輝きを彼女は持ってた。しかしその彼女の輝きは目立ち過ぎたのかもしれない、彼女は病気という悪魔に狙われてしまったのだった…

「ユウキ、私死んじゃんでしょ…ねえそうなんですよ？」彼女は冬のとても寒くて故にキーンと張りつめた空気の中、ある公園のベンチに座りながらそお繰り出した。僕は「ミカはしない、絶対死んだりなんかしないよ」と無器用な僕は励ましにもならない言葉をかけた。「ねえ、ユウキには私が死ぬってもう伝えられてるんですよ？何で、何で隠すのよ！」そして彼女は泣きだした。僕はもう耐えきれなくなって「うん、知ってるよ。あと3ヶ月だって。隠しててゴメン。」…「ありがと。ほんとの事いつてくれて。なんかこれで少しスッキリしたかもしれない。」彼女は僕が隠し事をするといつも嫌がっていた。この時もそうだったんだ。そして本件事を言えば彼女はいつもなら笑顔になった。しかしこの時の笑顔の輝きはいつもの半分だった。

「あのさ、俺ミカが死んでもずっとミカの事忘れられないと思うしずっと好きだと思う。ミカは三ヶ月後に上に行くけどさ、俺もいつになるかは分からないけどいつかは上に行くわけだからさ、だからミカ絶対寂しがらないで。俺達はいつまでも一つなんだから。」ミカは大粒の涙を流しながら「うん、うん、そうだね、そうだね」と言ってくれた。それから二人で笑いながら付き合ってから今までの楽しかった事を話しあった。その時はとても幸せで、どれだけこの時間がずっと永遠に続けばいいのと思ったことだろう。しかし時間はそんな事おかまいなしに進んだ、そして朝になったのだった。

それからいろいろあったが、ちょうど三ヶ月後ミカは逝った。そして僕は世界の半分を失った。

今でもミカは僕の心に生き続けて、そして僕の心の中で輝き続けている。そう、ミカもきつと向こうの世界であの冬空の星達に混じりながら僕の事を想い続けてくれてるにちがいない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7689c/>

星になった彼女

2011年1月15日02時35分発行